

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立富士見高等学校)

目指す学校像	規律ある落ち着いた環境で、生徒一人一人にきめ細やかに指導を行い、地域に開かれ信頼される学校
--------	---

重点目標	<p>1 生徒理解に基づきながら、「明るく挨拶」「身だしなみを整える」「時間を守る」を基礎とした、基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図り、豊かな人間性と社会性を育む。</p> <p>2 少人数学級編制や習熟度別授業などにより、きめ細やかな学習指導を行うことで、確かな学力の向上を目指すとともに、全ての活動を通じて学習意欲を高揚させ、生徒一人一人の進路希望を実現させる指導を行う。</p> <p>3 学校行事や部活動等を通じて、社会の一員としてたくましく生き抜く体力と気力を育む。また、地域貢献に積極的に励み、地域に開かれ信頼される学校づくりを推進する。</p>
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>〔現状〕 全教職員の共通理解の下、規範意識の向上と基本的生活習慣の確立に向けた取組みが生徒に浸透してきている。真面目で素直な生徒が多数を占め、中学校や地域からの生徒評価も高くなってきた。</p> <p>〔課題〕 ・情報モラルや交通マナー遵守の指導を充実させる必要がある。 ・人間関係形成力の育成とともに心や家庭の悩みを抱える生徒に対する相談体制構築の必要がある。</p>	生徒の基本的な生活習慣の確立と人間関係形成意識を高める。	<p>①全教職員が丸となって積極的な生徒指導に取り組むとともに、保護者の方との連携により、遅刻・欠席・早退者を減らす。</p> <p>②県教委指定の「道徳教育推進モデル校」として、人間としての在り方生き方に関する指導内容を研究・実践する。</p> <p>③スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー及び外部機関と連携し、生徒・保護者の教育相談等に応える。</p>	<p>①③遅刻者、欠席者、早退者の減少。</p> <p>②③問題行動による指導件数の減少</p> <p>②③交通事故件数の減少。</p> <p>②③中途退学者数の減少。</p>	<p>概ね達成できた。</p> <p>①全体的に遅刻者数は減少したが、欠席・遅刻率が昨年度を上回る学年がある。</p> <p>②1年を中心に、道徳教育に関する講演会や体験学習等を計画的に実施した。</p> <p>③問題行動による指導件数、交通事故件数、中途退学者数は若干減少した。SC、SSWのみならず、教職員による問題行動等早期発見が実を結んでいる。</p>	B	<p>生徒アンケートでは、規則正しい生活習慣が身に付いていると66%が、悩みがあるときに相談しやすい先生がいると55%が回答した。集団としての規律を守るとはもちろん、生徒の個性を尊重しながら、一人一人の状況に応じた道徳教育プログラムの作成や、クラス担任を中心とした相談体制構築を更に進める必要がある。</p>
2	<p>〔現状〕 9割近い生徒が習熟度別授業は自分の学習に役立っていると回答。進路指導部中心にきめ細やかな指導を実施し、一人一人の進路希望実現を果たしている。</p> <p>〔課題〕 ・「主体的・対話的で深い学び」、新学習指導要領、大学入試改革に向けた取組みは早急に対応する必要がある。 ・1年の段階から進路意識を高める必要がある。</p>	<p>生徒の学習意欲を高め、確かな学力を向上させる。</p> <p>進路指導の早期化・体系化により、一人一人の進路実現を図る。</p>	<p>①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うために、授業研修会・授業互見を行う。</p> <p>②新学習指導要領に対応した教育課程編成の検討を行う。</p>	<p>①生徒による授業アンケートの結果。</p> <p>①教員の授業互見を学期に1回以上。</p> <p>①「未来を拓く『学び』プロジェクト」への学校全体での取組み状況。</p> <p>②小委員会の発足と検討状況。</p>	<p>概ね達成できた。</p> <p>①教科研修会で、カリキュラム・マネジメントにつながる協議を行った。3回の授業互見週間、未来学びでは積極的な参観があった。</p> <p>②全教職員による「学校の内外環境の分析」を実施。</p>	B	<p>教科内での共通認識、課題共有を図ることはできた。今後は、学校全体そして学校を取り巻くすべての関係者を考慮し、本校の目指す方向を明確にしたうえで、新教育課程の具体的な編成作業に取り組む。</p>
3	<p>〔現状〕 文化祭や体育祭等の学校行事への来校者数が増加し、部活動加入率も向上している。9割以上の保護者が本校に入学させて良かったと回答している。</p> <p>〔課題〕 ・学校行事や部活動等の参加により、生徒の目的意識を更に高める必要がある。 ・生徒募集に更なる工夫が必要である。</p>	<p>生徒が主体的に活動できるよう学校行事や部活動等を活性化させる。</p> <p>地域に信頼される学校づくりに向け、地域との連携を更に深める。</p>	<p>①学校行事や生徒会活動等への主体的な取組みを支援する。</p> <p>②部活動1年全員加入を継続し、活動を更に活性化させる。</p>	<p>①②生徒・保護者アンケート結果。</p> <p>①保護者の方の学校行事・PTA活動等の参加数の増加。</p> <p>②部活動加入率と活動実績の向上。</p>	<p>概ね達成できた。</p> <p>①88%の保護者が、入学させて良かったと回答した。</p> <p>②年度当初の部活動加入率68.5%(+5.4%)であり、県大会出場数が増加した。</p>	B	<p>学校行事に83%、部活動に55%の生徒が積極的に取り組んでいると回答した。生徒の意欲を更に向上させるため、生徒発信による取組を行う。</p>
			<p>①近隣の学校や施設等との交流活動、市主催の行事参加等での活動を奨励する。</p> <p>②全教職員による中学校訪問等の広報活動を効果的に実施する。</p>	<p>①交流活動、ボランティア活動等への参加者数の増加。</p> <p>②HPの更新回数及びアクセス数の増加。</p> <p>②入学志願者数の増加。</p>	<p>概ね達成できた。</p> <p>①生徒会や部活動の生徒を中心に参加した。</p> <p>②HPアクセスは68,200件、入学志願者は227人であった。(3月18日現在)</p>	B	<p>書道部の発表機会が1回増えたが、小学校との交流会が実施できなかった。地域連携及び広報活動の在り方について、新たな方策を構築する必要がある。</p>

実施日	平成31年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>学校の雰囲気がいぶ変わり、「受けている」授業から「参加している」授業になっていた。身だしなみや交通マナーについては、生徒たち自身が自主的に直していくようにすべきである。生徒同士で互いに注意し合うことが大切である。一部生徒の言動が、学校の評判になることを自覚させる必要がある。中途退学者の減少は、これまでの生徒指導の成果である。道徳教育推進モデル校の事業は県内で先駆けての取組であり、とても評価できる。</p> <p>授業では、生徒を引き付ける工夫や、まとまった分かりやすいプリント等を拝見した。授業に向けて多くの準備をしていることが実感できた。話し合い等のグループ学習は多くなってきた。協力することで新たなことに気付くし、高度な問題等もグループで解くと分かりやすい。生徒自身が自分の進路についてもっと自覚できる内容を増やしてほしい。年度後半にも三者面談を実施するなど、卒業後の進路について相談する機会がもっと必要ではないか。</p> <p>多くの生徒の要望を受け入れ、文化祭を2日間開催にしたことは良かったと思う。発表や展示等の内容も素晴らしく、2日間にした成果を、生徒たちが享受している様子がうかがえた。地域との関係については、生徒会や部活動の生徒を中心に、富士見市の様々な行事に参加しているので、より深く深いつながりができている。今後は、多くの卒業生(同窓生)たちともつながり、生徒たちにとって効果的な教育活動ができることを期待したい。</p>	